



“町政は町民の声で動かすもの”という信念の下に、町民のための町政が実現できるよう、全力を尽くして皆様とともに活動する。それは、議員として忘れてはならない、私の“原点”です。議会活動の報告・皆様との意思疎通の手段として、大切にして参りました“卓ちゃんだより”の発行が、怠りぎみになり、深く反省しております。

今回の“卓ちゃんだより”では、今話題にされているベルツ温泉センターの統合保育園化について、議会人として、きちんとした報告をし、町民の皆様のご理解を得たいと思います。

Ⅰ 経緯について

保育園の統合移転問題は、

国の政策変更による町営から社会福祉協議会への経営移管

前口保育園の廃止・光泉寺経営草津保育園の廃止

等々をきっかけに、保育園児が第一・第二保育園に吸収されてきたという経緯の中で、平成20年以来継続して取り組まれてきた問題です。

今年になって、ベルツ温泉センターへの統合移転が急浮上してきたのは、第一・第二保育園の耐震調査を踏まえてからの議論です。

22年3月31日までに、21年度予算施行による耐震調査が終了致しました。

5月の臨時会終了後の全体会議において、次のような診断結果が示されました。

第一保育園：1階に耐力壁が少なく、柱だけの園庭構造は、早急に大規模な補強工事が必要である。

第二保育園：既に耐用年数を越えた木造建築物であり、改修補強工事が必要
今年3月に、草津保育園と合流したため、現在でも手狭な状態で、補強工事により壁が増え、保育園の機能を満たせなくなり、感染症の発生しやすい環境になる。

さらに

現在の場所における耐震補強工事案・統合保育園新設案

道路公団跡地利用による新設案

小学校空き教室の利用案

文教地区（小・中学校エリア）内での新設案

ベルツ温泉センターへの統合移転案

等々これらすべての案件の中から、慎重なる調査検討の結論として、町当局が選択した、ベルツ温泉センターへの保育園統合移転について説明を受け、全議員が各自の意見を述べる中から、ベルツ温泉センターへの保育園統合移転という形で方向性が示されました。

6月の定例会において、ベルツ温泉センター改築設計のための予算案を可決。

8月18日臨時会において

ベルツ温泉センター改築計画のための予算案を可決。

ここで私が付け加え強調したいのは、6月定例・8月臨時議会での議決は、出席議員全員一致の議決であるということです。

II 賛成理由について

私が、ベルツ温泉センターの統合保育園化案に賛成するうえで、最も重要視したのは、保育園児の安全で良好な環境の確保とことの緊急性です。

耐震調査において、

第一保育園では、柱の鉄筋が剥き出しで、ブロック積みの壁には鉄筋が入っていない状態で、早急な大規模補強工事が必要とされる。

第二保育園では、床が波打つ等木造建築の老朽化が激しく、たとえ補強工事をしても手狭で、保育基準を満たすことができない。

と判明致したとのことでした。

人の命は何物にも替え難いものであり、まして、皆様の子供であり、孫であり、ひ孫にあたる、草津町の未来を担う園児 131名を、安全で良好な環境の中で慈しむことは、すべての町民が願うところであります。

また、この危険な状態を知り得た以上、町も議会も、一刻たりともこの状態を放置することは許されません。一日でも早く、良好な環境を整えるために最大限の努力を払わなければなりません。

統合保育園の新設については、

①新たな場所での新設は、用地確保が困難なことから完成までの期間が未定

②第二保育園建て替え・園児の移動による統合は、最短でも来年の12月になると予想されること

③工事費はいずれも3億5千万円以上+仮設保育園数千万円

ベルツ温泉センターへの保育園統合移転の場合

①改修工事は今年12月までに完成する予定

②改修工事費は1億3千500万円

③駐車場と運動場の設置が可能となり、良好な保育環境が整う

“なにものにも替えることができない園児の安全と、ことの緊急性”に鑑みて、町長が、速やかな対応と綿密な検討のうえで、きめ細やかな説明をもって提案された「ベルツ温泉センターへの保育園統合移転案」について、私、黒岩 卓は賛成の議決に手を挙げました。

III ベルツ温泉センターの廃止について

ベルツ温泉センターの廃止問題は、一昨年以来、中沢 敬前町長の時から、議会の中で検討課題として取り上げられ、議論を重ねてきた問題です。

ご承知のとおり、「ベルツ温泉センター」は、平成13年10月以来、日帰り温泉施設として営業して来ましたが、赤字経営が続きました。

売上高は平成15年の1億700万円をピークに年々減少し、平成21年度の売上高では5700万円にまで落ち込みました。赤字額は毎年4000万円前後に達しており、10年を経過し、浴場の補修等多額の経費が見込まれることから、赤字からの脱却はさらに難しい状況です。そのような中で議会は、事業の撤退を含め、ベルツ温泉センターを、営利目的の施設ではなく福祉目的の施設に転換したらどうか？等々、近い将来には決断を下さなければならぬと議論を重ねておりました。

営業至上主義の民間であれば、もっと早く廃止という結論に至っていたかも知れません。ベルツ温泉センターの事業とまっすぐに向き合い、しっかりとした議論を重ね、事業の改革あるいは事業の廃止という結論を、議会としてもっと早く出すべきであったという反省の思いもありますが、私としては、福祉目的への転換を考えておりました。

保育園の問題が出て来たからベルツ温泉センターを廃止にするものではありません。以前から、ベルツ温泉センターの経営改善・事業転換・廃止の議論がされていたのです。耐震診断から、園児の安全確保・良好な保育環境の整備とその緊急性という難題に、町長が決断した「ベルツ温泉センターへの保育園統合移転案」に対して、議会が全員一致をもって承認したのです。

Ⅳ 議決の重さについて

議会における議員の発言と議決の重みについては、語るまでもありませんが、議会制民主主義の下における町議会において、議員は町民を代表して意見を述べ、町民を代表して議案を審議し、議決するのです。

議会は町民の最高意思決定機関であり、議会の議決が町民の意思なのです。

議会における議決において、議員は、自分の支持者の意見や賛否を斟酌し、何をすることが最大多数の町民の利益に結び付くかを判断し、信念に基づいて、自らの政治生命をかけて手を上げるのです。だから、支持者との関係においては、議員としての決断について説明し、理解を求めることが必要だと思うのです。

町の行政において、予算をとまなうものについては、議会の議決を経なければ執行できません。

6月11日の定例会本会議において、一般会計補正予算の中で、保育園工事設計委託料として1千500万円が可決され、ベルツ温泉センターへの保育園統合・移転計画は、実施に向けての方向づけがされました。

8月16日の臨時会において、一般会計補正予算の中でベルツ温泉センター改修工事費として1億3千500万円が可決し、ベルツ温泉センターへの保育園統合移転が確定致しました。

これらの議決は、出席議員全員一致の議決であり、“全町民の意志”であるとも言えると思います。どうかご理解をいただけるようお願い申し上げます。

今後においては、工事請負契約締結のための承認の議決が残りますが、一日も早く園児の安全が確保され、良好な保育環境が整うようお願いしております。

Ⅴ バスターミナル前足湯の新設について

バスターミナル広場前足湯の新設については、過去の定例議会において、二度にわたり、関 憲文議員・宮崎 謹一議員によって一般質問という形で質問と要望が出されました。これに対し、中沢 敬 前町長は、前向きに検討する旨の答弁をしていましたが、東山 魁夷先生に係わるミニ公園があること、温泉の引湯に多大な経費が必要で、工事が広範におよび、長期化する等の理由で実現には至りませんでした。

今回私は、黒岩 信忠新町長になったことを契機に、町民と共に行動する議員として、ターミナル近隣の住民の皆様をはじめ多くの町民の皆様の賛同と署名をいただき、「草津温泉バスターミナル構内における足湯新設に関する請願書」を取りまとめ、紹介議員欄に 黒岩 卓 と署名し、この請願書を議長宛に提出いたしました。請願書は6月の定例議会において、全員一致で採択とされました。

7月15日の臨時会においては、請願採択という、議会と住民の強い意志を受け、黒岩 信忠町長の即決・実施という英断の下に、一般会計補正予算の中に、バスターミナル駅前広場足湯設計委託料100万円、設置工事請負費800万円が計上され、全員一致で可決決定されました。

全国的な足湯ブームや、足湯そのものの効果、お客様同士の交流や地域の活性化については申すまでもありません。いまや、足湯は温泉観光地の必需品とも言われております。草津温泉の玄関口であるバスターミナル駅前広場に、湯煙の香る足湯を設置することにより、自然湧出量日本一を誇る“湯の街草津”の温泉情緒を醸し出す。訪れたお客様は、これからはじまる楽しい旅に胸をときめかせ、街をあとにするお客様は、満ち足りた気持ちの中で、旅の思い出に浸っていただく。そんなやすらぎの湯としてバスターミナル駅前広場の足湯が出現するのです。バスターミナル周辺や中央通り商店街の活性化にも役立つものと思います。

町長は、「10月中の完成を目指し、手続きを進めております。」と言われております。是非、そうなるようお願い致します。

VI 湯畑へのマイクロバス送迎の自粛について

現在、複数の旅館やホテルが、自家用のマイクロバスで、宿泊のお客様を湯畑まで送迎しています。湯畑だけがにぎわい、湯畑へつづく小道や中央通りは閑散としています。「歩きたくなる街づくり」・「中央通りの活性化」を推進している立場として由々しき問題であると思います。また、送迎バスを待つ人の行列ができ、車が渋滞し、車道にもお客様があふれ、混雑する人の波を押しよけるように送迎バスが走っています。お年寄りと子どものための福祉バスも予定どおりに走れません。とても危険な状態で、いつ事故が起こっても不思議ではありません。お客様は安心して湯畑を散策することすらできません。安全とやすらぎを売りものに、湯の街草津の中心地がこれで良いのでしょうか？

もともと旅館・ホテルの送迎バスは、旅館組合内の合意による自粛運動の中でバスターミナルまでの送迎がおこなわれ、お客様は、ここから歩いて町中を散策されておりました。いつの日からか、“自分の旅館やホテルだけよければそれでいい”というエゴから、湯畑まで送迎するマイクロバスが現れ、旅行会社からの要求もあって、今のようになってしまったのでしょうか。

10月には、①前述のようにバスターミナル駅前広場に、足湯が完成する予定です。また、②地域住民からの陳述によって、岸川アパート跡地を駐車場として、「パーク&ウォーク」の基点にすることも決定し、予算化されております。これらの事業を契機に、送迎バスをバスターミナルまでとするように、戻したらどうでしょうか？ 私は、このことを住民運動として盛り上げ、是が非でも実現させたいと考えております。町民の皆様のお力をお貸し下さい。

VII 「歩きたくなるまちづくり」を推進するために

「歩きたくなる街づくり」を推進するうえで最も大切なことは、訪れたお客様に、楽しみながら街を歩いていただくことだと思います。

趣のある町並の整備もその一つでしょう。それには景観条例の制定や整備にかかる補助金の問題等を解決しなければならず、住民合意の形成から整備の実現まで多くの時間と費用を必要とします。

もっと身近で簡単に楽しんでいただく必要もあるのではないのでしょうか？
例えば、

◎通りに面した商店がその店先で立ち飲み・立ち食いのできるスペースを作ったり、店の一部を簡易でおしゃれなテラス風の作りにして、店で売っているものをその場で飲食させるとか。

◎通りに面した旅館がその玄関先を解放するなどして、お休み処を提供したり、館内の一部を解放し、そこに興味を引く絵画や写真・わが家のお宝などを置いて楽しんでもらうとか。

◎通りのあちこちにミニ足湯でもできれば最高ですね。

足湯に使う温泉は、湯船のオーバーフローの利用も可能だと思います。

商店が足湯設置のために温泉の引用を希望する場合、これを許可する道を開き、給湯分担金についても減免措置をするべきであると考えており、今後の検討課題として取り組んで行きたいと思います。

お客様に楽しんでいただければ、その店や旅館にとってリピーターや口コミでの集客の増加にもつながると思います。

全国には、坂道の多い観光地や長い階段の観光スポットがたくさんあります。多くの観光地が、坂や階段を逆手にとって、魅力ある街づくりに成功しているのではないですか？ 私たちも町民一丸となって、「草津温泉」の名に恥じない街づくりを推進していきましょう！

皆様のご意見・ご要望をお寄せ下さい！！

